



FRAUMÜNSTER – PREDIGTEN

フラウミュンスター説教

牧師: ニクラウス・ペーター

2009年8月23日

神への愛と隣人への愛

[信仰告白に関する説教 第二回]

Höre, Israel: Der HERR, unser Gott, ist der einzige HERR. Und du sollst den HERRN, deinen Gott, lieben, von ganzem Herzen, von ganzer Seele und mit deiner ganzen Kraft. Und diese Worte, die ich dir heute gebiete, sollen in deinem Herzen bleiben, und du sollst sie deinen Kindern einschärfen, und du sollst davon reden, wenn du in deinem Haus sitzt und wenn du auf dem Weg gehst, wenn du dich niederlegst und wenn du dich erhebst. Du sollst sie als Zeichen auf deine Hand binden und sie als Merkzeichen auf der Stirn tragen, und du sollst sie auf die Türpfosten deines Hauses schreiben und an deine Tore. 5. Buch Mose 6.4ff (申命記6:4以下)

Glaubensbekenntnis 信仰告白

(I) Wir glauben an den einen Gott,
der Himmel und Erde geschaffen hat
und uns Menschen zu seinem Bild.
Er hat Israel erwählt, ihm die Gebote gegeben
und seinen Bund geschlossen zum Segen für die Völker.
私たちは信じる 唯一の神を
天と地を創り 私たち人間をその似姿に造られた方を。
神はイスラエルを選んで彼らに律法を与え
諸々の民を祝福するためにご自身の契約を結ばれた。

(II) Wir glauben an Jesus von Nazareth,
den Nachkommen Davids, den Sohn der Maria,
den Christus Gottes.
Mit ihm kam Gottes Liebe zu allen Menschen,
heilsam, tröstlich und herausfordernd.
Er wurde gekreuzigt unter Pontius Pilatus,
aber Gott hat ihn auferweckt nach seiner Verheißung,
uns zur Rettung und zum Heil.
私たちは信じる ナザレのイエスを
ダビデの裔、マリアの子、
神のキリストを。
イエスとともに神の愛が全ての人間にもたらされた

癒し、慰め かつ求める愛が。
彼はポンティウス・ピラトゥスのもとに十字架につけられたが
神が彼を復活させられた
私たちに救いと平安を与えるとの
ご自身の約束にもとづいて。

(III) Wir glauben an den Heiligen Geist,
der in Worten und Zeichen an uns wirkt.
Er führt uns zusammen aus der Vielfalt des Glaubens,
damit Gottes Volk werde aus allen Völkern,
befreit von Schuld und Sünde,
berufen zum Leben in Gerechtigkeit und Frieden.
Mit der ganzen Schöpfung hoffen wir
auf das Kommen des Reiches Gottes.
私たちは信じる 聖霊を
言葉とするしにあつて私たちに働く方を。
聖霊は私たちをみな信仰の多様性の中から導かれる
そうしてあらゆる民からなる神の民を
罪と咎から解き放ち
義と自由にうちに生命へと招くために。
全ての被造物と共に 私たちは希望する
神の御国の到来を。

Bekenntnis der Evangelischen Kirche Kurhessen-Waldeck

(クルヘッセン・ヴァルデック福音主義教会信仰告白/大石武訳)

愛する共同体のみなさん、

二年前、わたしたちが当時の受堅者(堅信のための信仰教育を受ける者)たちと一緒に、ユダヤ人の若者たちと初めて出会い、その後さらにイスラム寺院を訪れたとき、受堅者のひとりがこう言いました。「彼らは、自分たちが何を信じているかをはっきりとすることができていたけれど、ぼくたちにはそれができるだろうか？実際のところ、ぼくたちは何を信じているのだろうか？」それは、わたし自身にとっても同様に、真摯に受け止めざるをえない問いであり、発言でした。

まったく、そうではありませんか？(この国で)多数派を占めるものたち〔訳注；キリスト教会のこと〕は、その点ぐらついています。何の目的のために生きるのか、何を信じるのか、とくに考える必要もなく、ただそこに立っている。ほとんどみながそうなのです。しかし、少数派のうちにある人々は、そうはいきません。彼らは、何が自分の信仰の諸原則であるか、何が自分の宗教的確信であるか、はっきり公言できるものでなければならないのです。その理由は単純にして明快です。すなわち、彼らが他者と異なっているという現状が、彼らをして自分自身について、自分のアイデンティティについて、尋ね求めさせるからです。彼らは問い、求めます。最も深い確信を、そして、神を。この問いは、救いに関わる(heilsam)ものです。

今や、わたしたちはこの問いによって、わたしたちの、あの特異な、ユダヤキリスト教信仰の物語れきしの直中へと、導かれてゆきます。事実、わたしたちが信仰と呼ぶものは、突然何事かを体験し、経験し、見て、理解し、さらには、そのために立ちあがる大胆さをもった人々の個々の歴史ものがたりとともに始まったものだからです。

はじめ少数派だったものが、そこからだんだんと多数派になってゆきました。そもそものはじめには、ノアの象徴的な物語があります。彼は何事かに気づき、何事かを予感しましたが、それは、他のだれも、心に留めようとも認めようとしなかったことでした。ノア、かの災難が来たることを見通し、箱舟の建設を開始した彼は、満ち溢れる水の危険からは全くもって程遠いと見るべきときに、それにもかかわらず洪水からの救済の舟を建てるのです。みなさんはおそらく、ノアの箱舟についてのマニ・マッター[1936-1972 ベルン・ドイツ語で歌ったシンガーソングライター]の詩をご存知でしょう。「むかしあるところである男が建て始めたある物は、なんだか箱のようで巨大なもの/人々が来ては『こいつは何だ』と尋ねるが、彼は『舟だ』と答えるばかり/はたしてそこにはどこまでも、海もなければ湖水もないのに・・」。ここで、リフレイン(サビ/繰り返し部分)です。「さあ今や聞こえる人々の声、『こいつはどうも、頭のおかしなやつらしい』」。そう、人々は彼を頭のおかしな者(Spinner)だと本気でみなしていたのですが、しかし、彼こそが実に何事かを予感し、何事かに気付いていたのでした。

これに続くのが、アブラハムです。彼は、ウルの街で、大変恵まれた境遇にありました。しかし、彼は突然の召命に心を開けることとなります。彼は、ただひとりの神の声を、内に響く声として聞くのです。「出で発て、わたしが君に示す地に向けて、旅立つのだ」。するとアブラハムはすべてを後にし、事実そのとおりに出発いたします。ここでも、こう言うことができるでしょう。「さあ今や聞こえる人々の声、『こいつはどうも、頭のおかしなやつらしい』」。

続いては、モーセです。彼は、自らの民をエジプトでの奴隷状態から導き出すことを志しました。モーセは民に、自由について一貫して満ちた、自由な地の夢について一語ります。ここでも、こう言われるでしょう。肉鍋にもありつけるエジプトでのそれなりの奴隷状態の代りに、逃亡という大胆な冒険リスキーを取り、荒れ野の道をゆく危険を選ぶとは、この男はどうも、頭がどうにかしている(spinnen)・・と。しかし、彼こそが、実に、燃える芝の体験をし、ただひとりの神の声を聞き、神がくださる自由がいかに価値高いかを、突然にも、現前と思い知っていたのでした。

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」

これこそ、イスラエルとわたしたちの教会の、原・信仰告白です。

神の声を聞きとったノア、そのひとつの声に聞き従い出立したアブラハム、そして、モーセ、預言者たち、さらにはナザレのイエスの信仰告白へ。時を経て次第に姿を現し明確な言葉となっていくひとつの信仰告白、これは、第一に少数派であった小さな民の告白でした。周辺の諸民族が信仰していたのは、雨の神、戦いの神、性の神、豊穡の神など、大勢の神々です。当時の人々が崇拜しなければならなかった二千もの神々を数えるあるバビロニアの祭司の神名表が、わたしたちの前に保たれ残されています。また、その時代に由来する、ある古い祈禱文も、同様に伝えられています。それは、多くの神々がいることと関連して生じた恐れに言及するものです。曰く、「どうか、わたしの主の怒りが、おさまりますように。どうか、わたしの知らない神が、わたしの前に心をお静めになりますように。どうか、わたしの知らない女神たちが、わたしに対して心安んじておられますように」。この続きはこうです。「なんたる苦しみだろう。神々の全てを知るといことは、すなわち、二千もの神々が、みな崇められることを欲していると覚えることなのだ！」

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。」

当時のとりまく世界にあって、他のものたちは皆、何かまったく異なるものを信じていたのですから、イスラエルのこの信仰告白は、きわめて大胆なものだ、といえましょう。

ただ、わたしたちは、このような告白が、イスラエルにおいてもまた、はじめから全く自明だったわけではないということも、聖書から知らされています。聖書の中にも、当時の多神教の痕跡、多神信仰の足跡はあります。いや、わたしたち人間は、だれもが、その心のうちでは、なお幾許か多神教信奉者なのではないでしょうか？わたしたちは、状況に応じて、あるいは自分の望みや気分に応じて、さまざまな神々を持ってはいはしないでしょうか？わたしたちにとってうまくいくことがあれば成功の神！いざというとき、安定を求めているならば金銭の神、不安があれば強さと力に満ちた貫徹の神！どうでしょうか？！あるいは、わたしたちが大きな刺激を求めているときの、魅惑的で何でもよしとしてくれる性愛の神もおります。さらには、もしかすると、家族という神、群衆という神、真理という神さえ、わたしたちを悲惨へと導いているではありませんか？わたしたち人間は、不安定で、首尾一貫しない本性をもち、矛盾した願いと理想の間で、我を忘れて行ったり来たりしています。そのため、ひそやかな多神教にもむきだしの多神教にも、こんなにも心魅かれています。マルティン・ルターは正しくこう言いました。「あなたが心執られるもの、あなたが心底頼むもの、それがあなたの神である！」

本当に、あの声に信頼を寄せるためには、大胆な勇気が必要です。

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。」

筋の通らない、この願望やあの幻影に駆り立てられた本性は、わたしたちの告白と折り合うものではありません。わたしたちの告白とはこうです。ただひとりの神だけがおられる！創造者なる神だけが、その被造物に生き生きと向かいあってください。わたしたちの人生の最も深い知恵、わたしたちの切望する最も豊かな充満である。真の自由と解放はこのお方のもとでのみ見出すことができる。

この信仰告白は、単なるひとつの哲学的世界観とか、物事についての冷やかな、一定の距離をおいた見解、というのではありません。そうではなく、これはひとつの熱烈な^{ザツヘ}事態です。何かわたしたちの全き存在、わたしたちの心、わたしたちの魂、そして、そう、霊的な力をも包括しているはずのものです。このことは、続く告白文に、明白なものとなります。「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」

ただし、わたしたちは、これによって、わたしたちと共なる人々から隔てられるというわけではありません。むしろ、反対に、神への愛には、同時に、隣人への愛が加えられることが欠かせません。ですから、イエスは律法学者たちが最も大切な律法について問うたとき、それに二重の教えでもってお答になったのです。第一に、イエスは、唯一の神への信仰告白にして神

への愛の律法^{おしえ}である申命記6章4節以下、シェマー・イスラエルを引用なさいました。そして、それにレビ記からの隣人への愛の律法^{おしえ}が繋ぎ合わされます。「隣人を愛しなさい、自分自身を愛するように」。この二つは、分離できず、相伴うものです。そして、この観点から、クルヘッセン―ヴァルデック福音主義教会の新しい信仰告白の構成は、とても学ぶところが多く、良いものだと思います。「私たちは信じます、唯一の神を。天と地を創り、私たち人間をその似姿に造られた方を。」この信仰告白によって、直ちに明らかにされていることは、他の諸信仰告白においても、もちろん共鳴するものです。神、見えるものと見えないものの唯一の創造主、この方が人間を、ご自身と向き合う存在としてお造りになりました。それは、神が自由な被造物をお求めになったからであり、神の本性は無法な圧力や優越的支配ではなく、愛だからです。だからこそ、神は、ひとりひとりの人間に、ご自身の気高さと本性とをお与えになったのです。聖書は、それを「神の似姿性」と呼びます。この言葉は、まるで気高い称号であり、人間ひとりひとりへの約束です。わたしたちは、神の似姿として創造されました。わたしたちは互いに、神の愛、その大いなる恵み、そしてその自由に生きるのです。

ここで求められることは大きく、大いなる恵みの明白な告白に日々生きていくことは、そう簡単なことではありません。しかし、先週申し上げたとおり、ともに声をあわせてひとつの告白をすることは、子供がつづり字を学ぶことに似ています。ひとつの信仰^{いろは}のABCをとともに語ること、人間存在の文法を真摯に学ぶことによって、それらは自ずとわたしたちの内に刻まれ、わたしたちは、それらを心に受けとめることになるでしょう。このことはわたしたちに必要です。なぜなら、まさに今、わたしたちは思い知っているからです、わたしたちがこんなにもしばしば多神教的であることを好み、偶像をとかく筋の通らない在り方で頼み、これを神と崇め、これに自らを捧げることを好むものであることを。わたしたちはつづり字のように筋道を立てて学びます、唯一の神を、心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、愛することを。それから、隣人への愛―共なる人々のために心を留め、愛すること―を。

わたしたちは何を信じているのでしょうか。このことについて、実際に、簡潔にして明瞭に、何事か語るができるでしょうか。これが、わたしたちの最初の問いでした。今や、わたしたちの諸信仰告白は、わたしたちが日々の生活の中で、改めて少しずつ信仰について学んでいくにあたり、助けとなろうとしてくれています。それは、わたしたち人間と共にいてくださる神の歴史―ノア、アブラハム、モーセ、預言者の物語、知的な勇気、人間の冒険、そして神への熱情の物語―を理解するための、正確な教科書です。その物語^{れきし}こそ、今日わたしたちが第一にたどったものでした。

さて、その後、具体的な歴史、人間性のドラマ、似姿性は、わたしたちの信仰告白の第二の段落に至ります。そこで語られること、それこそ、ナザレのイエスについて、その神一人への愛、その受難と復活についてです！

アーメン。

* ドイツ語説教原稿は、www.fraumuenster.ch („Pfarrer & Gottesdienst 牧師と礼拝“の頁)でダウンロードできます。

訳文についてご質問等あれば大石(Ohishi_shuhey@hotmail.com)までお問い合わせください。